

亀っ子だより

第49号

— 亀崎小学校 校長通信 —

2021年12月23日

6年生の前で発表する5年生 5年生の前で発表する6年生

5年生が、半年間、防災のことを学んできた成果として、防災フィールドワークでの発見を防災マップにまとめました。そして、5年生が亀っ子タイムに各学年の教室を回り、この防災マップをもとに、地震や津波があったときの危険箇所やその退避方法などを亀小の子どもたち全員に伝えてくれました。当然、6年生の教室にも出向き、発表を行いました。昨年、6年生も防災フィールドワークを行い、防災マップを作成し、亀崎幼稚園、コミュニティセンター、公民館に掲示してきました。その先輩の前で発表したのですから、きっと緊張の度合いはかなりのものだったと思います。5年生の発表を聞き終えた後の6年生の温かな拍手は、きっと5年生の労をねぎらうに十分だったものと思いました。5年生自身も、達成感を味わえたものと思います。このような企画をしてくださった5年生の先生たちに感謝、感謝でした。

また、12月21日、6年生が5年生に対して、修学旅行で学んできた学習の成果を発表してくれました。法隆寺や奈良公園で見学したこと、学年を解体して行った京都分散研修の経緯とそこで学んだこと、感じたことを実行委員を中心に発表してくれました。その姿は、きっと5年生にとって憧れの対象になったのではないのでしょうか。6年生の発表を聞き終えた5年生が感謝の気持ちを込めて礼をする光景は、とても美しく思いました。来年、修学旅行に行く後輩たちに対する6年生の思いは、きっと5年生に届いたものと思いました。卒業アルバムや卒業

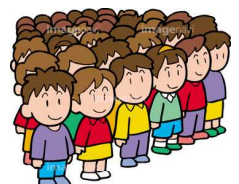
文集を作成する忙しい時期に、頑張って準備をしてくれた6年生の子どもたちと先生方に感謝、感謝でした。

このような5年生と6年生の関わりを見ていて、先輩と後輩の良きつながりを感じました。先輩は、後輩の面倒を見たり自らの経験を語る中で教え導いたり、後輩はそんな先輩の姿を見てその思いを受け継いだり尊敬したり、そんな間柄になれば地域はずっとうまくいくものと思います。この機会が、将来の亀崎の人と人とのつながりの礎となることを願っています。



3年生の動きに感心しました

12月17日（金）体育館で児童集会を行いました。今回は、3・5年生が体育館に入り、集会を楽しみました。2つの学年が体育館で開始の時間を待っている中、3年生の先生と5年生の先生が何やら話をし始めました。すると、並び方が打合せとちがっていたのでしょう、3年生の先生が突然「3年生起立。番号順に並び替えます」と子どもたちに指示しました。すると、3年生の子どもたちは、あっという間に番号順に並び終わりました。その姿を見て、私はとても感心しました。私の経験上、こういう時、ついついおしゃべりをしたり、動きが遅かったりするからです。しかし、3年生は整然と素早く先生の指示どおりに並び替えることができました。先生と子どもたちとの信頼関係の強さを感じました。



2学期終業式 校長のお話

みなさんにとって、この2学期、どんなことが思い出されますか。ここでは、私の思い出に残っていることをお話しします。まず、1年生、秋の宝物でおもちゃやゲームをつくって6年生を招待してくれたことです。1年生の頑張り、6年生の笑顔が忘れられません。2年生は、図工でつくった光のプレゼントです。カッターナイフを初めて使う人が多かったと思いますが、とても上手に立派な作品をつくってくれました。毎日、廊下を通る度に楽しんでいました。3年生の亀っ子潮干祭りも忘れられません。お家の人の前で、みんなで作った山車を引き回したり、工夫したところを発表したりしている姿は、とても立派でした。4年生は、先日行ったクラス対抗ドッチボール大会で盛り上がっている姿が忘れられません。フェアプレーでとても清々しい大会だったと日紫喜先生が教えてくれました。5・6年生は、運動会での応援合戦や修学旅行の姿も忘れられませんが、5年生が6年生の前で防災フィールドワークで学んだことを発表し、6年生が5年生の前で修学旅行での学習の成果を発表しているそれぞれの姿がとても素晴らしいと思いました。後輩の頑張った姿に先輩である6年生が拍手する姿、来年度の修学旅行のお役に少しでも立てばという先輩の思いをしっかりと受け止めている5年生の姿、先輩・後輩のとてもよい間柄を感じました。この先輩・後輩のつながり、同学年同士のつながりがこれからもずっと続いてほしいと願いながら見ていました。私にとって、この2学期は、みなさんの素晴らしい姿を見ることのできた幸せいっぱい学期でした。みなさんはどうでしたか。

さて、いよいよ冬休みです。この冬休みにやってほしいことは、家族との時間を楽しんでほしいということです。大掃除を手伝い、おいしい料理をみんなで食べ、お家の人みんなと楽しい時間をいっぱい過ごしてほしいと思います。そして、1月7日始業式の日、大きな病気をせず、大きなけがをせず、交通事故には決してあわず、元気に亀崎小学校でまた会えることを楽しみにしています。

♣ 子育てアラカルト ♣

「聞く」「聴く」「訊く」の違いを・・・

「聞く」：普通自然に聞こえるときには、この漢字を書く。

「聴く」：耳と目と心で、初めて「聴く」という字になる。

音楽などをきく時に、この「聴く」を使う。

「訊く」：尋ねる。質問する。疑問を持つこと。質問することが学ぶもと！

その他にも、葉などが「効く」という字もあるが、今日は「聞く」「聴く」「訊く」の3つに絞ろう。「聞く」よりも「聴く」、そして「訊く」の方がより深く「きく」ことになっていくのがわかりだろうか。ただ「聞く」より、心をかたむけて聴き、内容を深く理解する。その上で、疑問に思ったこと、分からないことを訊くのだ。この3つの「きく」をうまく使い分けると、きっとあなたの「きく」世界が広がっていくことだろう。

〈深く「聴く」クイズ〉

さて、ほんとうに聴いているかどうか、ちょっと確かめてみよう。

よく聴いて、あとの5つの質問に答えてもらいたい。

さくら ももこ。「ちびまる子ちゃん」の作者だ。

エッセー「もものかんづめ」「さるのこしかけ」も評判が高い。

ベストセラー作家「さくら ももこ」は何がきっかけで生まれたのか。その秘密が面白い。

彼女が高校生の時だった。何気なしに業者テストを受けた。作文のテストだ。添削が返ってきた。点数は95点だったが、古風な筆でコメントが書いてあった。その内容がすごかった。「ここまで言ってくれるのか」というくらい絶賛の言葉が添えてあった。「清少納言が現代にやってきて、現代の物事を見て書いているようだ」とまでホメてあった。これで、本人は「自分もひょっとしたら、エッセイストの才能があるのか」とすっかりその気になったそうだ。

このオーバーなくらいなホメ言葉が、作家「さくらももこ」を見事に誕生させたというわけだ。

ー 金平 敬之助 ー

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| ① 誰の話？ | ② この作者のエッセーは「もものかんづめ」とあと一つは？ |
| ③ 作文のテストは何点だった？ | ④ ホメ言葉に出てきた人は誰？ |
| ⑤⑥ 何が彼女を作家にさせた？ | |

【心に刻む言葉】 聴くとは、相手の話を再生できること (ある教育者のひとり言 より)